# 甲驛夜錦

へ13
2947
30

へ13 2947 30
特 へ13 3002 特

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くれ増くさきもるる君まつ梅と
他人良の色揃あやめ菖子花去
いろさゆとよ馬屋なるもくも猶
くくくくと残ゆと法めれど
ゆゆすりくと山幸院の家さを
わ新るく晒落くれ中れ字れ

腹立上戸中直りあくと三右郎
上戸の杯乃ゆるれ見れ乃
度くてぐれ法ますく間更
上戸三人よ女て文字ゆ法ぐ字利
其目緑法くたむ安ぬ
志つの梨

宇治茶釜

跋

殊に中よりなる色咲も興

殿沙よ所縁ある授へ此

藝ゑ花茶扱の持心より筆を

魚と水指の水瓶硯み



うけ心よりあきらかの

輪の柄扱をもて其情を

汲取て初昔のうゑ

きさき後昔はちくへ

此道よ名の筆れ今

宇治乃茶釜子の筆は腰
掛をとるも石臼の古さを
そ飛石をあり茶人氣質
是もとてきやの道ゆく
ぞう〜

樹下石上

京四

甲驛夜は錦
堀の内糸うり淀橋はよどくなさやさも
よりてこそそれ糸掛へ成寄寺に名よ咲へ
江戸名乃廣馬の給れ言ものとされくふ蓋
古乃乃緒ゴヨこく 菜屋より米女屋 八さんとふ
はなるせませんぞ。彰さんぞ。お初ぐさかぞ。おあぐ
よりごとりまれ。文人音の客八ト云ハさるかさ更会れよりやく
ほとり里へ屋りるる文彩ト云ハ初んぐ納メ物すら ごこもの秋より
かり合の役人ぐ年も堀の内で出ぐまれの客ハ八れり 八彩

さんハアいくだいむ〜 男 まへ〜ごぜいさや
ぜう 八 アンデモ ゐるまとかは 男 ソウ
ねごさんが出れさ 女 なのそこの内ハ美しひ
採でござうもれ 拙灯 男 美ほ屋を
なのまごさのおぢちやなのうとよく〜ぞまう
ぢさん 若 ハイ〜 れ様ま〜 なの方ごるぢさまぜん
よ 八 女こ人ゆ屋ラ ろ門ト 八 エウ 男 ろだアむ〜 女 白
測ごよ〜 氷ぢまおりまます

浅草ゆや若者 出むこしハ〜 八さんあうぷ入らの赤い
ぢ供やアおまゆアなのびろ 若 ゆ
ぢさんなのまト 男 ゆ
足ハ八が物ハかゆ屋が 八 アント 若 ゆ
物屋ごうのまる
もめの女帰元の於やろ 男 ゆ
庶ろう 十二畳ろ〜ろん乃
上面のゆちやりこ〜 庶のうい
動ろう 表を〜 仏 神酒ト出 俺ごよけてうち 上の袋戸ハ十
足弱の墨於ゆ 用たくすとあけ 枕ハ空紙の書るのちしの
前於〜たいの法附ごそんぢちらさ 紙てんぢ
三色の俳見が一枚さ〜ゆるくや 第九 四

[彩] ナァニ、えんとむ共
ようさがん首ハさるもうくとぞ〜のわうさ
ゑをあーてくん猫へト胸を [八] そまやァよろ
しく猫へうり者ぐ。氣につくノないく
ねで。ねけぐ〜とちと。ぞうしいぜ。
とのぢうれぐんぐ〜もの者ぞ乃客たが
そのきまこのぐ。ぞうとあたゃむ〜ぢ〜ぐ。
おゐむ〜 [安] 彩さんぞゃそんぞゃそうも

ぞの者る氣ぢうひんぐどまゑんぐ。ますと
ぢうぐまゑ [彩] ェ、トいかす [安] を極のうト
ちゑ席トにいるぞの者トさてやト祇ゑ〜ぞ彩ト彩ぢう
おゐゑゑ二ゑトよゐシ家ゑとるトこくきうそ立ぢ作く [安]
祇ゑとゑりおうんをゑてくよびまゑうトゥ者む
足よりかゑりの色ちたぢめぐるトゥ扇猫さんゐ者てゐぢなゑ
ぢまゑ [扇] ワイトぐるり [考] おぐさんゐゥ猫ゑんト
祇ゑを [安] おゑ色ハいぐたまゑうぐ出酒面光
なゑまゑ [考] ゥ猫ゑ [安] ゥ ゑわ〜

ゆびあつーの客にだどさろゆーーて大きな
お指ぐすぐすーてぐまぐまぐま

ちゃう雀帽子とび 八 もしもしゑ〳〵親〳〵
ゑ〳〵ト古風にわめく 扨報くのお月出だやり 庄 ヤンヤ
八 彩さん今のうた〳〵ぶんとゆうもん 彩
稚前サ 八 ハテナ 田植の手とゆふ。ふ〳〵ぶ。
ちゃうもん〳〵 彩 サア一つ春駒〳〵 浦 ちゃと
よこまをう 彩 まづく 女 彩さん何のことか
う〳〵 義とゆうとおもしろませ 八
彩さんの堀下の役者衆のさるまね稚ご

とゑづむ〳〵 蓋 サア〳〵一つお聞ひ。おもしろまを 彩
そんなら二すとめつとく。ぢん稚〳〵 二てうまそらとろを
業師でそんのゝ汁くちゆふとゆふ
めらたこいろをこゆうにうこ実略ス一ほう名のゆき 横ゝ業師のゆく
あんりよしわ いろを使ふと 蓋 浦 萩ヨ
さまゆふサ 蓋 きゆいとそんサ 八 ハア三味をとご。
ちゃとやさんで酒にとぐ 彩 八さんの
酒ゆるゆ。ぢゃう。ぬぞさん二酒
ゆの呂業合トヲ ぢゃ〳〵ぢ。そ〳〵ぢ。ちゃご

まゝの内をおさのこぐぢぷ　ちろんぷのとやぐぢヨ
おそうーぢん　注梅ぐ　母　かーとあり　まるて
丙　お梅さんのあぐかくぢぷ　ぷーるるーだ
ぬ　とちのと　体　まるりみーや　母　てア
ぐぢやア　祝へうェ　母　てア　ちんとお体　ぢ　海
てのち　祖　酒　ぢ　ぢ　八　彩さん
ちんと　祝ぐるだつ　彩　ぐんぐらおぐ
さん今みのとお　ぐぢい　母　ハイ〜ぐさた

めてりまと　是より　ぢ　ぢ　ぢ

[illegible]。[illegible]をかけくらべ　おめさんに[illegible]ぱいそぼめ
[illegible]ようにはつらつとけんぱをとふぷりうんーか
八ごふくろ。おそさんの。[illegible]ぬ[illegible]ーまさう　四
[illegible]ぐうりとくーぐ。ぎようにまのもぐん
ぎんのうぐぷまーあうぶ[illegible]ぷ。うて
ありやせん　八アニガ　四　わくーぐ[illegible]ひぐさと
めつとうくーてそふ[illegible]ぐふんぐふんと女あよ
ちくくんあんとそう　八アニ　あれぐちくちぐれ

ほんのこんぐぷぺと一度ぐらゆくーとーこうゆ
ぷ年　近ろまるくうれね男ぐアむ。ぷ
えんとーちふぐぐ　四　姉ーいね　八　ちぐ
女房の実とぷまのぐの目角ぐのるとぷ
どぷまのぐんぐぷよお目ぐ出やうとふ者
ぷたとくぐ。のるくーアおぷ[illegible]ぐちくぐえぐぷいと
男ふ　四　ちくて　なぐぷくふ来とくーあんぷ
八ぐ一の徒を　たとくぷ来ぷ[illegible]ぷ[illegible]

とと。つさまやごとをも女房にあつかつて。お
りつく。旅の内さるべくんとうけて一せざく
ろを断物よ者し。たりの内ゝそうしやたち
おんなごいおうりのめ。うと。ちやうてくみのめす。ゆうを足袋にまでおりの法て
いやとそれさるもうこうごいあんとうら涙と
いかせうとを見世とうまんを。八りやア
なんを。考ゑ。数ゑのりと指ありと切て上ケ
ゑみんせうかうをれぐ銀とえらし

ゑん。ト用たんすの利カとゑ考ゑ。八いやうけとうて。アニそれ。
とゑん屋ゝ。ア二ハア。うこうごいも嬉しやせ
やゝそんあんゑ氣ゑるとそるとんどやア
袖ゝと。ト利カとゑ。考ゑ。見袋にまで。おりしやとゆう。
ゆのうさで。ゑゝ。ぐゝ。ぐんあんすゆ。ト袋を
八。アニハア。どうやさまちぐる。とんざ。今月の
巾月袋をかけて。考ゑ。秋にあつく。年が明ると
ぎにぐ。おめくさんの西いこあすにぐ。おめくさん

の所ゆく男あるやあるやあるやあ

ゆづそうぶ極（八りんよまこうるめづ
ゑれと赤地のきんぎんの金入物者のごむ
より判でなまれ出て
丙ひりの性〜ひろ
てとよのどゑ丙ゆす八てアらづて蓋すき
ろ丙そんゆうけ金で於合いま〜や
ゑうゆ〜だどりく〜おあさんの乃ゑく
いろく〜ゆうとにゆるをぶうるあやゑたう
をそれお恵に拾らく孫〜るやア安や

ゑんおめくのどらぶんへの日るく祝〜よゆみ
八ゆの金へとんどまるけりつてくゑ金ヨ
丙りく〜章をのうゆを女ゑのりう
かんへなといふとんぐ祝〜八ていすの
るゆとてをぶんといふハア丙そんゆらと
ととぶどんとんとろちゆうゆん〜ト
引よゑく行まで屋風ヲ
紙さ呉ト拾たんまり右く世界け女帝彼
金よて毎男とかあにとゆらぶどろく

不孝合なまだぼ猿や　小角柏やなぞ
に桂を四ぐなまる西の飛とも黒くどもも
は客をぶちころーの引ゑ　板客へ
一つよ女房にとるかくごぞれわるさ面白

○新トヽ　お梅ゞ国中の舟

彩　コヲ　おめきりいぶさぶよふぞおろる
女男とろぞんとうぞぞ者ぶえろぞう。
まひとゆうぞんとうちふすだろよ　梅　ナヱニ

そんなまへどざんやゑんぞーとぶさぶも
まやゑんぶぞふとぞおようぞいたろぞ旅
やゑん　男　とらぞいたくまぞ者ひ
うぞ天木やのかーは汁とぞの極ありやや
ふくちうのお菜ぞ　梅　キツイ　晒屋さ

彩　ヲかタあひすやのゑたんどでーと者
うぞおとうぞふうぞうさ　梅　イウふうめく
なんーさぞそんまぞ大ぞまぞ長ーとうテ

くんずんとよ。深がうもだもや。極くがぞのめんが。
ヨろうぞ。ぞ。やす。向ようもがぞうぞんまろ。牡。神
ヨうそふたのうくぞる。ア極くうぞ。ぞのちち
へ向て。弟くし。ひ。都ると。ぞ。極くる。梅。ち
ゆやぞんよ。ぞんが。ぞ。ーらぞ。よくぞ。
とうぞ。ぞうぞ。ぞうぞ。ぞうぞ。ぞらぞ。よぞ。ぞ。
ゆぞんーる。牡。ヨうぞうゆうぞうんぞ。ぞ
ちぞおめぐぞこのよぞうぞんぞとゆぞう

てぞるよ。ぞ。だちぞ。ぞ。ぞるハナ。ぞ。ぞのやぞと。ぞれぞ。ぞ。
梅。ハ。ぞうぞ。ぞ。ぞ。

[梅]コラそんなに。毎ばんぐらくさだをうを。
ちゃぐりてもぴ下歯ぐ。ごぐりぐりぐりぐりへ
あてるから。ぐりぐりぐりぐりぐりぐりへ
とふことをいろいろ。まんぐりぐりぐりぐりぐりぐりへ
はの。弁まき。飯盛の板ぐりぐりぐりぐりぐりぐりへ
装なれど。ぐりぐりぐりぐりぐりぐりへ
あんと。思ふ。ぐりぐりぐりぐりぐりぐりへ
酒の揚ぐ。女の俵ぐ。ぐりぐりぐりぐりぐりぐりへ

いろのごとく飯くされ。如らなざア。ぐりぐりへ
つくもぐる。和をぐりへ[コラナンタラトフ]ぐりぐりへ
まんとふ。使ひさんぐりぐりへ
きくおたんぐりぐりへ
ぐりてすぐめる顔をしているぐりへ
ぐりへ一句ぐりぐりへ
さぐりへ。ぐりへ。ぐりへ。ぐりへ。
ぐりへ。ぐりへ。ぐりへ。ぐりへ。

[梅]モ今はすでにきらい

ちやの湯とぴかりそふなんご　竹

ぴかりぐどふ〜〜と起よりぶちのめ　にわかとぐりぐりぐどふ

三三人ふ丸ゑるをきて来をおるあ

るとく　のりくきく　大なぐどれにあるあこかしになすめれど

△ぱさ目だ大ゑるふぐへこやくぐ

トやクやくくく

ぢいがん花糸がそめにする袋に
とをひ。わけて今青ハぱとめさせ
孫ぢやアこうちのぢさんだんも呂
ニアくうりちやゐて。ぢんる 松
それぢうく。ぢまいて孫 秋 ちか
熊さんが待く居よりのぢ 松 ナアニ
よく孫つく。いやとそれハそうと。
ひろ。おかさんの。ぢ。ぢいやり。

秋 ハ須ぢやアなきもぢいく。
小ちも。出孫のさ 松 ぢうきぐんとれ
なんーアレアノ呂ぢ花さんでご豆
やと トハ ぢ丹ぢ花糸カニ三ハ ぢ丹と花ぢ者なぢうてぢ者
ぢうハ法人鼻をちまんぐ豆ぢ色ハくうくさるその
なハきまうう角よころれむ。さ花ちうのすそまハとれ拂
のむ。ぢトかけの絵をまの円ー小袖をおうみすて常ハ
ぢとくくをしめはきをりちくくぢんくくぢのあひぢめて
ぢまりうそぢハ行ぢざを立てする 松 ちゃトぢ孫すーさく 花 アイトバカリ云
熊さんが月ぐ呂ぢくくそふで灰吹の吉ぐ

きゐ　ドレめうせう。秋さんのち極
花　ヤアよゝあのそこなんしゝお菓を
旦さとれさどに呑なんしゝそゝく酒を
なんまうのこゝろんすナ　松　アイとよひね
お合のはるいるすゞごゝ　ゝよ
たゞこく。きゐいゝゝ　れゝてゝよひへ
ゝゝ　ゝゝ　ゝとかゝゝんゞゝんすナ
ゝゝ出　花　なのゝとゝ。かわいそうに。おめく

十四

さんとわるうゝがるゝとくろふすゝてふき
いく毎月く　きゐゝくゝゝなんゝと
ハ子　秋　どゝゝゝ　ゝのようゝとおゝう
二人と分けゝ世話ゝてくもるゝ
ゝんよアノよもてめるおれも大変ごこし
花糸　時西でハ組まんくゝと相ゝと仕
おゝ　ゝさゞ　花　サア　秋　どゝるあんゞら
ゝやく　ゝるゝと　花　ヤアおきゝるあゝ
秋

賀へが耳へに「ふくくト」云事とい
さなんでもおめさんとわるくと深い
仲とたれうあやうるとうのうとこ
た【秋】そんなうたのてい〳〵さ食う【花】
さんもりる遠しさ【秋】ナントおしを
まいつるのいう【花】アイトでくり
あやア大変さけもふこでたんまり【秋】それ
を十二三枚も劫宮くさア山二階へも上

られめ郭とちがうて薬屋でたのもも
でたぞ外に文のさいろくとするう
あんるとふぐりそあんいるといとさ
いでだんまり【晃】よろくて悔そうぐちなん
すごろふぐいそうしいせう稲へコラま
ちがいはそうい〳〵いるうあのちゑ場つくを
けよのん若男〳〵てよびいとあんとのう
だかしい【秋】とてもうあう稲へるぞが

ヨにそらにぷむぐれ[illegible]わしてぷかんけん
てぐれうぐてあくいすぷ。ぢちるぷぢちるぷ。是せ
きるぷそのらくにぷおれうるめに郭をぷかぐう
四てけ里くらうぐくるとるく。ぷ年と云
祝んのなるよにぷ。三年祝んといもさせ。時
なのそぐつきたろのナかいとそのにおれと云
出ぐつのくいてるぷてあくの来をぷはあう
祝くと。出のて幾度ろ。出ひきろのくとう

十七

おりくども一日おろ祝む飯もこりとれど
とふいふまだにあるとう[illegible]恩そん
なぐちとおいなんとおあくさんとぷ母
ら祝くあのくにぷいうういちることなのま
やはぷとるさせるんたろのるみ月
今夜の金ぐまちぐけぐおあくさんよ。な
ヨれぬときうるにぷ四うとかくどとう
いきとそのあくいたろ。ちあけのあ書

さんぢよどもをんしておつてもーてあか
さんかうくしておくんなんー 秋コレナゼ
そんなぼれ花ゆとをいはくこれるおれを
どーのつまりゆあぬかくどーてめ世二ツ
にあんでぺれる氣おつぺいちにぺろふぺサ
保そのかるにるつぺるつぺ市りさんの
これすぐのまに実るも水のあへ 花ホシニ
おりくだぺてう花のどふんぺなくとめく

郭にいる内こそ花ぎくさんや花琴うさん
にも世話になりくと 中元もつとあり 全盛ところる
秋コレ花糸ぺそそくとぺけあくねニんの身上
今度の勘定が出ねうくぺ二階をと見
られるハ海のかうすれべなわれぬに
どうたぢとかとのよういそかくどを。
きのあ今宵の花糸が 花嬉う
ぐんを 秋コレてめくそれわどるねぐ嬉ぺう

花 アイ 秋 サアおしゃもの 花 アイトかなもの
[illegible]を[illegible]ケ[illegible]の一[illegible]の刺刀を
[illegible]の刺がまへ[illegible]めス 秋 [illegible]
サアハ花系ぷくとことぷや 花 アイまむ
なのぞぶつ 秋 ことちちふ[illegible]の[illegible]
母老人の大おんこのよふなぷちくぷうに。
おとろぷおれとぷに花系おれることを
系遅そのくじゃよう先ぞ刀系
者ちのれゆるーふあてふとまぷサア

十九

ちる系 花 おくれなんーたくト刺刀を
[illegible]ーくはケ花へりく
花系のうーろよりまつりいる花あハ彼お松 秋 ま
ぷさんぷるるハ西おお松さんぷ刀ぷーの 花
ナアニだかしいぷるうに[illegible]ト[illegible]系の刺刀をれよケてアく
お二人ぷちちを系をちぐめくぷんま 花
おお松さんぷ西ぷとあなんーたく 松 ぷる
ちくハぷ花系でぷふするとのうくトちちるがら
廣海のゆとニワ
佐つぐ二人ハの西 さうとハぷおくさんぷるハナぜ

そんなに心なすいるをしてあんをえて
なりなんしてこんぼうこらご
よふなわるく祝くことのございくこと
いつかいぐごとる法合といひやすまや
祝くうくトあこぐ ながく おめさんごとび祝とる
兄弟ごとるたよりいくいやとぼ
ぐむいきとぎうちあんあめさんごで
とうやとめくナぜこふいぼけごうこ

所に死のかとものりのごとりぞてうん
ちあんせんぼんすりどふよくなおころ
いきご祝くあ おめそふちかぼうこ
ずとかと男ねぐぼとてもけもうねこ人ぐ
角のとてタおめくのち実へ祝もおよごね
いまを迄の大おんサアそれ祝に二人とえ後
ちうくくもるきおめにどのてえあ
ぐこれるとのうえぐこれいえる郎を

いつそ。さ〜さ。祝ほうが。すーと。かくと
きらめく。今青のあんだかるーず。ひるく。
男のいくらんなさんナ 兎 おねさん。いま秋
さんのあつさ。すとりでおすかるーだ。
熱く男のいくらんなんする 松 今青ち。
どうも。おめさんぐるのお新の色が。すあ
祝かるーと。さーさ。ぱいつ。ふうとーて隙
の。さーさに。ちの死ぬ。新に。ぬるれさ



祝ぬも。ぬるーみすーーぱやーたなぜ
それかど。金がいるるなら。ぬ合ーて
ミ。それ祝ぬといいくらんなんぬ。
あんが。ぬーーがよのふるそうき祝
ものぐ。ぬーて 秋 ソノお玄葉ぬなり
ぐそいぐ。今ぬまでのとる祝ぬなく。世話
にるうさ。ちおめるぬ。なんが。玄田ぬの祝
あ。おれぐ。ぐいくぐ。ぬのたうさぐくぬ

はぐのうが言れるものぞくをだし
ゆるす縁はいまだにあるべうぞ。おいらも
二人とださうたりおりひ切てらん縁
冠 おやすみさんぞふで男ひ切て二人を
死ぬ事ぞ。らんなんー 松 金ぞぐでお
さうめる事なるう十あいあうう二十あでも
きいに切べしてよしてやるう 秋冠 ぞよと決めるう
新とえんている 松 サア金さん出来やーたなるう



よりどこやるう 秋 ぞよるぞがつてんぐ。
いろ縁 松 なる縁がつてんぐいきなんと
めるう。そのかの金の出来あうをちくきる冠
うとふそうう。さのうとおやきあんー
春暁さんぐ。なのーるのだん寄るとのぐ
どぞのをけまち暁よりあるる家たりう 秋 ソコデ 松
てアだまつく。おんなんー。まるとよ
いのうのよあに家縁でぞのどるが

はなはだおもしろく書やすと思ふて
書やすいハサ。そ〳〵して書てにくまいと
とろふよの思ひ殺しやう〳〵。そう
て。花さんが書のよくふるんをとこ〳〵例やわら
るゝ依さ場さんよ物ゆた具合悪ぎると二
三日の内によこそかとぴいとくゝるあなと
よこ〳〵なん〳〵たゝ将足ぐまれば。足ぐ
強ちりめんや極田ゆすぐことよのかどぐく



とを外にる一三枚ぐらいが出来るなのてぐ
ゆりやとそろ〳〵。こんなまゝ一おぐ〳〵やゝ
たゝ。十あぐらいも出来やとうまと
こんなようとこふきんをうゝとア
樹の方をとおゝ。おゆりなん〳〵 秋
男波の涓それ孤にすぐ男つてくまる
おめの白のきゝ中〳〵なるにも男ね
ぶ。それとゝ〳〵と書とぴそるむよふなゆ

まれでぶ〜〜。おめ〜ぐ若芽〜〜てぐて
これとぶぐあきれ稲〜時ハ一向うまう稲〜
ゆまれで 松 ある稲けように結合や
まてこぶぐ〜〜。いろ稲〜時ハトかんうて
ヨ〜年〜ぐあう年三三月の四ひきかく
さんぐなのひひきれのあすぐでぐぐこのとと。
そのとき時いろくなゆ〜〜やなのかと〜〜たかと
で。ひて〜〜ぐうとぷこれぐ新とまく



いひあすゆハぐあう稲とのく。よう稲
金のいるゆぐ出きれやいろうナレデモ
あめ〜ぐきるそのふぐえと〜〜よふと
男のくいゆたとふとかさんぐきも
とはぶ〜く。あんぐ沢るいと稲〜ぐ
ぐんなこのとい年あすとかのとて
と稲〜ぐあうぐいい元とちや家元とう
京〜で。十二こまるつる年〜ぐ出きれやる

いろ〳〵若かにあるやもぞそ〳〵たて
ゝとこ稲〳〵いぶ〳〵こ。ゐつとゐ稲れ
おやゆうやなんぞそふまると。お祝屋で
いぢめ〳〵もぞうぶい虎とのぞたこ食
とゐ〳〵。わ〳〵ゐとぞたこめとゝて。
いま近これわど若〳〵おりひとゝた
ゐつ稲〳〵といゐ〳〵洞とまぶゝて。こ寺
ゐやとゐまぞ。ぢつかぞ。ぢつさんゐ屋家ぐ



金ぐ入るといふよのまる。祝屋ゐまぞりゝ。
二年ゐゝとゐ。三年ゐりゝとゐ稲とへ
てぐゝゐ。ぞあだうゝゐと抜ゝ。ぞ心立ゐを
仕ていゝとんぐぞぢかぞさんぞゝてい
ゝとんぐゝ。ぢゐへゝ。かゝさんぐよ。かんぐ〳〵
ゐゝゝゐたれ〳〵もまゐのゐゝゝとんぐ
ゝゝ。お屋やていぢゝめ〳〵ゐゝゝなゐゝを
るのゐ嫌〳〵ゐのゐ稲ゝとんぐゝゝ。お

ちょひ切ぐ様。てアそんあるっぷ。ちっさん
のもと。その日合とそぶぐんしてそよ
ぶぐんあるいてっぷ。ちるゆうと云ます
とぶぐん今月中にいまのまち河沈。
きあてらんあ出くしあてくれぐらく
出来てるゆくに点やすんちろ合とら云
てる気にきるあるよ。にいます。やすう。
そのきあり次第金のでらぐ様と



さとあーてぷ二階にかさあとぷろくぷ
出なんーてアそのるゆぶきあこすぐぷ
今夜ぎうりまーて。あくれあるんとな

秋 ゆとも洞にづくーぶくなんにとぷいとね
よくーうあとなだぐくなんにとぷいとね
あるりぐらぷ。あめ乃ちさけ。ちうーよく
とのぷ。かんがくとるぶぎりくぷ。あめに
年をいまこさとく。今の於合ぶぐさとくまる
ゆのろ是だろうへぷ。なんがあめのちふ

こうくと 松 ナアニわさーやあめさん
ゑるのそえふすることろさうそのうふる
事いれろうけうすぎぞんな事ぎと
とる氣でいやすうぞうぞうぞうぞうが
いふ毒ろうまくもおらんなんー 兒 とき
どうろうハ 松 足袋いゆーてとさきん
ちゃのんすんでいまのゆうたかるーいるとと。
ちゃのんとらいなーうーわうーがさきく



刻ようやちよふと 秋 そ刻力をコレ
ゆやまうさかと食とかりよふそしてゑ
ねゑい 松 ようそんなーわーがふ
ととりにちいくもおらんなんとる 秋 ぞん
にもうぞねけ場のちぞそんなうぞふ
でそ食と 松 ちうとちゃのく抱て上
やそう 兒 嫌ーうーぞうんすー 松 ゑうん
りうなうずとぞまりちんとわうる

なかねこうぞ。そこてのつまづきに夜も明
やすこうぞ。すこわ〜〜ことぞ。おやすこそんし〜ト
（法ながらの合せるかん）（さまし〜てしをそのあり）サア秋さんもいまのところ
ゆうきのつぼ。おこびひとと出なんすんぞ。
ちうぎにきい呑なんし〜 秋 いろさま。
きつぞう。とかのいさきうぎにつつで
うんな 兎 おまつさんあのころいさん。
ちんでとぞとそれわし〜やすんぞれしう



ざんす 松 アレてタまねの兎の字もそう
あんするあんぎのはるの（家もそこ きつづのむト）サアとれ
でわこ〜るむなぐとれや〜たサアく
ちうことおやすこそんし〜（トこうりを称 行てよだ）
（を知りかけてやり屋風をこ 思ってホワトためいきをこうつ）わこ〜ことちん
ことと秋やすこうと出ちく行 秋 （まわこ実ん とうんして）
（ふさんぐらうしろ 勾ようてだんこう）兎 こ〜〜ぐふぞちんし〜こ
こわこ〜やおまつさんのまの実をかん

がれがうんぐるれとどかすー。くりまく
なりいすん。それまあ〳〵さんぐぶふさ
でもいぐなんすうう。れでぐんす ト
ゆすぶる 秋 ナニモふさぎまきまき〳〵ト
かねをつくそコレなぜぐんまん。ぬよりする 長 ゆう
ケサヅにふもうなぜうトいふといまま秋変ぐ変
ト ゆそうにちる家の様るわ家風乃
なるまさるよりわるしまるくなるし

九年 亥 なんのそ 若 黒り十年若乃
たる変むすぐぐあけたあ員の
市場いそぎ沢そ 船 ある ふる
乃教 あもハナアしる あもも 沢す
とむ ゆる ヤア まに とある人 なさけ
のトにとむ 行 うう 鳥 ガア くく

冊畢